



中病だより

COVID-19感染症の 終息に向けて



自衛隊中央病院長
防衛技官 上部 泰秀

今年には長梅雨で、七月には九州や中部地方などを中心に日本全国で集中豪雨も発生しました。被災された方々にお見舞い申し上げますとともに一日も早い復旧をお祈り申し上げます。その後は大変暑い日が続いていますが、皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。

この夏、自衛隊中央病院では五〇名を超える夏季定期異動がありました。また、防衛医科大学校看護学科三期生が幹部候補生学校を無事卒業し、更に凛々しくなって看護業務に復帰しています。

病院は引き続き、診療を充実させつつ救急医療に積極的に取り組む、自衛隊医療従事者等の臨床研修を受け持ち、その能力向上に努めています。残念ながら、新型コロナウイルスの感染は収まる気配を見せません。

病院は地域の感染患者の方々を受け入れ、第一種感染症指定医療機関としての役割もすっかり果たしています。これまでと同様、油断することなく院内感染防止・医療事故防止に努めます。ご利用いただいている皆様には、ご心配とご不便をお掛けしますが、引き続きご理解いただければ幸いです。

さて、我が国を取り巻く安全保障環境は厳しさを増しつつあり、国内においては集中豪雨や台風、首都直下地震等の大規模自然災害の発生や新型コロナウイルス以外の新興・再興感染症の患者発生も強く懸念されています。このような中、自衛隊中央病院は、各種事態対処時の態勢整備を粛々と進めています。九月五日には、大規模スポーツイベントを念頭に、特殊武器によるテロを想定した実動訓練を自衛隊の部隊のみならず、警視庁や東京消防庁と連携して実施します。十一月二十一日には新型インフルエンザの流行を想定しての、衛生科部隊や自治体等の参加する実動訓練を計画しています。

自衛隊中央病院は、隊員の健康管理と家族や地域の皆様を含めた診療の更なる充実を図りつつ、訓練を通じた各種事態対処時の態勢整備も着実に進めます。引き続き当院に対するご支援・ご協力をお願いいたします。

令和二年九月吉日

自衛隊中央病院長

防衛技官 上部 泰秀

自衛隊中央病院
総務部総務課発行
令和2年度
第2号

令和2年度前期定期異動

新着任総務部長挨拶



総務部長
防衛事務官 大堀 健

令和二年八月二十四日付で総務部長を拝命いたしました大堀と申します。私は、約二十五年間、内部部局で勤務したのち、自衛隊共同機関での勤務は、平成二十八年七月から平成三十年八月まで勤務した大阪地方協力本部以来、二年ぶりになります。

自衛隊中央病院は、本年一月末から武漢からのチャーター機への看護官の派遣をはじめ、クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」等から、日々多くの新型コロナウイルス感染者を受け入れ、治療を行うとともに、一人の院内感染者も発生させず、ひいては、首都圏の医療崩壊を未然に防ぐことに大きく貢献したと報道等で聞き及んでいます。実際に着任してみると、その対処能力と士気の高さを肌で感じる事ができ、このような機関で勤務する機会を得たことを大変誇らしく思っています。

総務部は、病院の院務が円滑に行われるよう、支えることが仕事と考えています。私自身、病院での勤務は初めてですが、これまでの中央病院の輝かしい実績を損なうことのないよう、また、中央病院の任務完遂に少しでも寄与できるように頑張りたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いたします。

新着任部長等紹介

○診療技術部長
一陸佐 水口 靖規
(前職) 統合幕僚幹部主席後方補給官付後方補給官

○臨床医学教育・研究部長
一陸佐 小保 二郎
(前職) 陸上幕僚幹部衛生部医務保健班長

○耳鼻いんこう科部長
一海佐 上出 大介
(前職) 自衛隊中央病院耳鼻いんこう科

○皮膚科部長
一空佐 中西 貴士
(前職) 内局人事教育局衛生官付

○産婦人科部長
一陸佐 加藤 雅史
(前職) 自衛隊中央病院産婦人科医長

○神経科部長
一海佐 岡林 俊貴
(前職) 自衛隊中央病院整形外科

○第三歯科部長
一海佐 飯塚 浩道
(前職) 自衛隊呉病院副院長

○診療庶務室長
一陸佐 吉田 一路
(前職) 自衛隊中央病院第一外科

新着任課長等紹介

○リハビリテーション技術課長
二陸佐 岡村 綾
(前職) 自衛隊中央病院リハビリテーション科

○栄養課長
二陸佐 野間 文共
(前職) 自衛隊中央病院リハビリテーション科技術課長

○放射線技術課長
三陸佐 安倍 眞
(前職) 自衛隊中央病院放射線班長

新型コロナウイルス感染症への対応

市中感染への対応状況

災害派遣が終了した後、東京都の感染者の急激な増加に伴い、感染症指定医療機関である当院は、東京都から重篤・重症患者用病床五床、中等症患者用病床四十床を確保するよう要請を受けました。

この要請に基づき、中等症以上の患者の受入態勢を確立する方針で調整を開始しました。当初、挿管患者は一〜二名でしたが、四人に増え、この状況が継続することになりました。更に酸素吸入を必要とする患者が十人近くになると、医官・看護師の負担は、かなり増加しました。

現在、患者さんは減少傾向にあります。が、当時は、全国各地で感染者が発生しており、他病院からの支援が望めない状況であったため、病棟等の更なる集約を図って対応しました。あわせて、職員の蓄積した疲労軽減を目的に、計画的な戦力回復や職員に対するメンタルヘルスケアも実施しました。

新型コロナウイルス感染症が収束するまで、引き続き、職員一丸となって取り組んでまいります。



病院でのメンタルヘルスケア ↓

渡辺政務官御視察受

令和二年八月七日（金）、自衛隊中央病院は渡辺 孝一防衛大臣政務官の視察を受けました。渡辺政務官は、自衛隊中央病院の概要と新型コロナウイルス感染症への取組みについて状況報告を受けられた後、院内の各施設を巡視されました。

施設巡視では、大型のヘリコプターが離発着可能な屋上ヘリポート、新型コロナウイルス感染症対応の第一線である八階西病棟、年間約六千台の救急車を受入れていた救急室及び高度医療を行うために必要不可欠な放射線治療装置等を視察されました。

特に、八階西病棟においては病棟設備、看護官等の勤務状況及び感染管理状況についてご理解をいただくとともに、病棟勤務員に対し直接、激励のお言葉をいただきました。



← 血管造影装置を視察



← 病棟の勤務員を激励する渡辺政務官

部外医療機関支援

令和二年七月二十二日（水）、感染制御チーム（チーム長 一等陸佐 青野 茂昭）は、世田谷保健所感染対策課の依頼に基づき、病院現地指導を実施しました。

この現地指導は、新型コロナウイルス感染症患者の受入れを開始する医療機関に対し、感染対策に関する専門的指導と助言を行い、適切な運営体制の確保に資するためのものです。

世田谷区に所在する古畑病院での現地指導においては、受付の飛沫感染対策、患者収容の動線及びフロアのゾーニングについて確認するとともに、個人防護衣の着脱要領について指導を実施しました。また、具体的な感染管理や職員のメンタルサポートについて、意見交換を実施しました。

患者受入れを前に多くの病院職員が参加し、感染管理に関する質疑応答等が活発に行われました。



ガウンの着脱を指導



感染症管理認定看護師の説明にメモを取る参加者



1次トリアージ用コンテナ運用開始

市中感染者等への対応を実施するにあたり院内感染防止の観点から外来トリアージ態勢を整備しました。三月には病院玄関入口に天幕を展開して一次トリアージ施設とし、病院に入る患者、業者等すべての方々の体温を計測するとともに咳嗽等の症状について確認しています。また、車両で来院される方に対しても非接触式体温計を使用しドライブスルー方式の検温等を実施しています。発熱等が確認された患者等については、九階西病棟（陰圧の施設）に開設した二次トリアージ施設に誘導し、そこで個々の症状等を確認の上、必要な場合はPCR検査や入院の処置を行える態勢を整備し、院内感染防止に努めています。なお、七月から、外気温や台風等の影響が少なく、検温の正確性と安全性を向上させるため、空調及び陰圧機能を有したコンテナを一次トリアージ用に導入し、運用を開始しました。



→ 導入されたトリアージコンテナ



← 内部には検温のための装備を充実

ブルーインパルス 慰労飛行

令和二年五月二十九日（金）、自衛隊中央病院の上空で、航空自衛隊松島基地所属のアクロバットチーム「ブルーインパルス」が、編隊飛行をおこないました。

この飛行は、新型コロナウイルス感染症と戦う医療従事者に対し、感謝と慰労の気持ちを示すために行われたもので、東京都内の第一種感染症指定医療機関等を結んだルートを二周しました。

六機のブルーインパルスが、青く澄み渡った病院上空を美しい白いスモークを引きながら飛行すると、病院屋上へリポートに集合した職員からは、拍手や「ありがとう」等の歓声が沸き上がりました。

「病院上空で旋回するブルーインパルス」



「ブルーインパルスに手を振る病院職員」



激励のお手紙等

この度の新型コロナウイルス感染症への対応に際し、多くの方々から激励や感謝のお手紙等をいただきました。アメリカ大使館及びフィリピン大使館からは、ダイヤモンド・プリンセス号乗客・乗員への治療から帰国までの対応に対し、感謝状をいただくとともに、全国から激励のお手紙を多数いただきました。現在、病院の一階エントランスに展示しています。



↑ フィリピン大使館からの感謝状



↑ 全国からいただいた激励メッセージ



↑ 激励品の目録を渡す渡邊三桜会長

報道公開実施

令和二年三月七（土）日に当院の新型コロナウイルス陽性患者受入について公表された後、報道機関等からの多数の取材依頼があったため、令和二年四月三十日（木）陸幕広報室と連携し、報道各社に対し報道公開を行いました。最初に、病院の概要及び新型コロナウイルスへの中央病院の取組み概要について説明した後、①病院エントランスでの一次トリアージの要領、②模擬患者による民間救急車からの陽性患者受入れ、③八階西病棟での勤務要領及び病棟のゾーニング要領、④感染制御チームによる、個人防護衣着脱要領及びN95マスクのフィットテスト要領等について展示方式で公開しました。テレビ局・新聞社等、十六社、約三十人の記者等が参加しました。



→ 模擬患者到着の様子を撮影するテレビスタッフ



→ 記者の質問を受ける病院長等

CT等の整備

令和二年六月、診断用CT装置をGEヘルスケアジャパンのRevolution CT（二五六列）に換装しました。広範囲な部位を高速撮影でき、Aiによる新たな画像再構成技術により、大幅な被ばく低減と画質向上のトレードオフ関係にある両者を実現できる装置です。

新たな機能として、二種類の異なるエネルギーのX線で同時撮影するDual Energy CTにより物質の判別能力が向上するとともに、使用する造影剤量の低減を図ることができ、また撮影部位に存在する金属の影響（メタルアーチファクト）を低減するアルゴリズム

（MAR）を搭載するなど、診断の質の向上が期待できます。このCTで救急、小児及び心臓領域の患者様へより一層の貢献ができるかと考えています。



↑ 新規CT装置 GE Revolution

また、同月には、人工呼吸器「ザビーナ300」が三台導入されました。本機は、感染対策が容易な人工呼吸器であり、感染症病棟や一般病棟のどちらでも使用することができます。今後の治療においてその性能を発揮することが期待されます。



→ 人工呼吸器「ザビーナ300」

診療放射線技師養成所 職業能力開発センター 入所式

放射線技師養成所（所長 海将 佐藤 道哉）は、令和二年四月七日（火）、人事教育局名越衛生官をはじめ、ご来賓のご臨席を賜り、厳かに、第五八期上級陸曹特技課程「診療放射線技師」の入所式を挙行しました。全国から選抜された隊員二十一名が、所長（佐藤海将）より課程学生に任命され、時々刻々と発展する医療の一端を担う「診療放射線技師」になるべく、大きな希望を持って入所しました。

今後、全員で「診療放射線技師」国家試験合格に向け勉学に勤しむとともに、同期との絆を強固にし、充実した学生生活を送っていきます。

また、職業能力開発センター（センター長 防衛事務官 野口 歩）は、令和二年四月八日（水）第六五期生入所式を挙行しました。

本年度入所した第六五期職業能力開発センター研修生は、陸上自衛隊員五名、海上自衛隊員一名の計六名であり、病院長等が臨席するなか、入所生代表が病院長に対し申告を行い、上部病院長から激励の式辞を受けました。

入所式を終えた入所生は、それぞれの目標とする職能の習得と研修完遂の決意を新たにしています。

診療放射線技師養成所 第56期生各課程合同訓練

令和二年七月十四日（火）から十八日（土）までの間、勝田小演習場において、衛生学校幹部初級課程（薬剤官及び衛生官）及び同（医官及び歯科医官）との三課程合同治療隊等訓練に参加しました。統裁官要望事項の「救命のための有機的な連携」、「安全管理の万全」に基づき、師団収容所における放射線陸曹としての業務及び警戒自衛行動等、野外における自衛官としての基本・基礎的な行動等について演練しました。

学生は、活き活きとして訓練に取り組み、日頃の勉強や練成成果をいかんなく発揮することができました。今後の部隊勤務における資を得た有意義な訓練となりました。



→ 野外X線撮影装置で、模擬患者を撮影する第56期生（上下）

優秀隊員等紹介

入校間及び部外競技会等での活躍により、各学校長等及び部外団体等より表彰された、中央病院隊員を紹介いたします。

○ 学術等優秀者の紹介

看護部第一看護課 栗林奈実
一陸尉は、衛生学校で実施された第六十一期幹部特技課程「看護師技術」において、優秀な成績により、衛生学校長を受賞しました。

また、総務部医事課 水口宏行
一陸曹は、第三陸曹教育隊で実施された、第二二〇期陸曹上級課程において、模範的な就学姿勢により、第三陸曹教育隊最上級上級曹長より褒賞されました。

○ 勤務成績優秀者の紹介

診療科神経科部長 岡林 俊貴
一海佐は、第一次派遣情報収集活動水上部隊第六護衛隊での勤務の功績により、第六護衛隊司令から第四級賞詞を受章しました。

同じく、診療技術部放射線技術課 大河原 真一海曹は、第六護衛隊司令から第五級賞詞を受章しました。

○ 運動競技会等活躍隊員の紹介

診療放射線技師養成所第五八期生 松田 諒輔三陸曹は、「柏の葉パークマラソン特別編一〇キロ」の部において、第三位に入賞し、表彰されました。

保健管理センター「保健相談班」

新しい生活様式と健康管理

新型コロナウイルス感染症が猛威を奮い、私たちの生活にも様々な変化が起こっています。今回は、健康管理という面から心掛けておきたいことを紹介します。

【出勤前の体温測定】

健康状況の把握は、本人だけでなく周りの人への配慮の上からも重要です。出勤前に体温を測定し、健康状況を確認することは、発熱など症状がある場合には、**出勤せずにまずは報告**することが大切です。

【個人防衛を確実に】

手洗いやマスクの正しい着用は基本であり、大切です。アルコール消毒も大切ですが、目に見える汚れがある場合は、まずは流水での石鹸手洗いをしましょう。

またマスクは、自分を守るだけでなく「周りの人へ拡げない」ことができます。「自分は大丈夫」ではなく、**職場の仲間や周囲の人たちを守る目的もぜひ忘れないでください**。また感染者が出た時のために、自分がマスクをしていたか、相手がマスクをしていたか、意識して記憶することをおすすめします。

しかしマスクの着用については、熱中症のリスクなども考慮し、個室での業務や、周りに人がいない状況では外すなど、状況にあわせて判断しましょう。

【基礎疾患はきちんと「コントロール」】

新型コロナウイルス感染症に関連した健康観察を行う中で注意したいのが、花粉症や片頭痛、喘息など、**基礎疾患の健康管理**です。

頭痛や咳、鼻水、呼吸困難感などは、新型コロナウイルス感染症の症状に含まれます。症状が出てからでは否定が難しくなります。例えば花粉症では、早めの受診を計画し、予防的な内服を行う（飛散予想のおおむね2週間前から内服）など、症状を抑える対策をしましょう。喘息も発作時の対処だけでなく、日々の吸入の大切さを改めて考える機会にしてほしいと思います。

また糖尿病などの基礎疾患のある方や50歳以上の方は、感染時の重症化が懸念されます。体調不良時には早めの受診を心がけましょう。

【やはり大切！3密を避ける】

やはり3密を避けることが大切です。居酒屋・外食や会食など飲食を伴う場での感染リスクは高く注意が必要です。

新しい生活様式の中で、健康管理に留意していきましょう。

出

てますよ、
意味をなさぬ
鼻マスク

守

るの
はここじゃないよ
あこマスク

記事担当
保健管理センター保健相談班